



——大学院に進学した理由を教えてください。
米山 関心のあるテーマを教授のもとで深めていきたいと考えたからです。また、諸外国ではより多くの人々が大学院に進学しており、世界の人々と同じように自分の力を磨く選択をしてみようと思いました。
仲村 研究者を目指して進学しました。学部生のときに留学をしたのですが、留学先で同じ授業を受けていた大学院生から刺激を受け、自分の母語や言語についてももっと深く知りたいと思うようになりました。
大野 学部3年次に、就職をするか、大学院に進学するか迷ったのですが、家族に相談し、「学びたいことがあるなら大学院に進学してみれば」という後押しを受けて進学を決めました。
松田 学術的な理論分析をもっと行いた

座談会 大学院での学び ～文系研究科在学生の声～



松田さん
 経営学研究科
 博士前期課程1年
 (明治大学経営学部卒業)
 研究分野
 財務会計・国際会計について

大野さん
 教養デザイン研究科
 博士前期課程1年
 (明治大学文学部卒業)
 研究分野
 日本神話について

仲村さん
 国際日本学研究科
 博士前期課程2年
 (明治大学国際日本学部卒業)
 研究分野
 日本語の歴史について

米山さん
 法学研究科
 博士前期課程2年
 (明治大学法学部卒業)
 研究分野
 ボランティア活動における民法上の責任について

いと思い、進学しました。学部生の時に公認会計士試験に合格したのですが、実際に就職するにあたり、大学院で理論的な研究をして、それを実務に還元していきたいと考えました。
 ——いつ頃から大学院進学を意識しましたか？
松田 学部3年次の終わり頃です。4年次は公認会計士試験もあり、進路が未確定な状態だったので、進学を意識しながら公認会計士試験に備えていました。
大野 学部3年次は就職と迷っていて、秋には大学院に進もうと決めました。教養デザイン研究科への進学を決めたのは、学部4年次の5月に行われた大学院の進学説明会がきっかけです。
仲村 学部2年次の終わり頃から、留学先で将来の進路をいろいろと考え始め、研究者の道を選びました。3年次の初め頃には進学を決めました。
米山 大学に入学した時から研究者に対して漠然と憧れがありました。具体的に大学院進学を意識したのは学部3年次で、自分が興味のあるテーマについて指導教員に疑問をぶつけた時に「ぜひ大学院に

明治大学の教育

Education of
Meiji
University

—優れた人材と研究成果を発信—

明治大学大学院は
 12の研究科と4つの専門職大学院で構成され、
 総合大学の強みを生かし、人文科学・社会科学・自然科学の
 幅広い領域で複合的な教育・研究が行われています。
 各研究科では、多様な研究テーマを持つ優れた教授陣により、
 少人数授業、きめ細かい研究指導・教育体制が構築されています。
 今回は、明治大学を卒業後、
 文系の研究科に進学し研究活動を行う現役大学院生が
 大学院での学びや魅力について語り合います。



来ないか」と勧めを受けたことがきっかけでした。
 ——どのような研究をしているのか教えてください。
大野 私は日本神話の研究をしています。アメノヒボコという朝鮮半島から渡来してきたと伝わる外来の神が日本神話に組み込まれた意味をつかめなかと考えています。
米山 ボランティア活動に民法上どういった責任が生じるかについて研究しています。民法学と社会福祉学の領域に及ぶテーマですが、指導教員も理解を示してくれて、民法学だけでなく、社会福祉学の分野からもアドバイスをいただいています。
松田 会計学のうち「財務会計」「国際会計」という分野を研究テーマにしていて、具体的には資本市場で企業が外部に報告

する会計を理論的に分析し、学問的な意味を見出し、こうとしています。会計基準の設定の意味や背景を理論的に理解しているからこそ、実務において基準やルールを適用できるという場面があると考えています。

仲村 日本語の歴史です。特に近代を専門にしている、それまでの漢文訓読体中心だった書き言葉から近代的な書き言葉がつくられていく中で、日本語の文の構造が西洋語から影響を受け、どのように構築されてきたのかを実証的に研究することを研究テーマとしています。

——実際に進学して感じた大学院の魅力をお聞かせください。

仲村 周りの大学院生や教員、研究者たちと関心を持った事柄について学術的にいつまでも語り合うことができることは、



——ありがとうございます。

——明治大学大学院の進路のサポートで役に立ったものはありますか？

仲村 博士後期課程の進学を視野に入っていたので、日本学術振興会の特別研究員として採用を受けたいと考えていました。明治大学では、日本学術振興会の特別研究員の採用を目指す人へのサポートを目的とした説明会があります。申請までのスケジュールを提示してくれたり、過去に採用された方から申請書の書き方の指導があったりと、サポートが充実していたのがとてもありがたかったです。

米山 もともと研究者志望でしたが、途中で就職活動をしよと考え直しました。明治大学では大学院生に特化したキャリアサポートとして個別相談会というものがあるのですが、そこでまるまる一時間、キャリアカウンセラーの方に進路相談や面接指導を非常に丁寧してもらったので、とても助かりました。そのようなサポートを受けられたことが、自分の内定につながったと思います。

——大学院での研究を将来どのように役立てていきたいと考えていますか？

とても楽しいです。

国際日本学研究科は複数の領域に分かれているのですが、異なる専門領域の方と話すことにもまた楽しさがあります。それぞれ自分の専門があるからこそ、何か一つのものに対して多角的な視点で、いろいろな切り口から話ができるような、学術的な刺激が得られる環境であることは、とても魅力的だと思います。

大野 教養デザイン研究科には、文理を問わないさまざまな専門の先生方が集まっています。大学院生も多様なテーマで研究をしています。今まで自分が知らなかったような知識や考え方に触れることができるので、研究に生かせるものも多く、視野が広がるという点でもとてもよい刺激になっています。また、留学生も多い研究科なので、留学生の友人を通じて国際的な人脈を広げられることもとても楽しいです。

米山 教員との距離が非常に近い点が魅力です。教員との議論を通じてヒントをもらい、欠点に気付くことで、新たな知識を得ることが出来ます。また、それを通じて論理的思考力を身に付けていける



松田 将来は、会計基準の開発や策定に携わりたいと考えています。私見ですが、

会計の世界は実務と学術のバランスが重要で、その視点に欠けると適切な基準は形成されないと思います。そういう点でも大学院での研究を生かして貢献していきたいという思いが今は強いんです。

大野 修士論文を執筆する上では、自分の論を論理的に展開すること、ほかの人に分かりやすく自分の考えを伝えることが大事です。大学院での研究を通じて



と思います。そのような学部生のときにはできなかった教員との「知の会話」ができる点が非常に魅力的です。

松田 大学院の授業は少人数で行われるものがほとんどなので、自分たちの関心や理解に応じたアクションを自然に表現することが出来ます。そういった要素を、取り上げるテーマにまで踏み込んで反映させることができる点は、とても魅力的だと思います。教員とともに授業を創っていくことは、大学院ならではの醍醐味です。

——明治大学大学院の経済的なサポートで役に立ったものはありますか？

松田 私は明治大学独自の給付奨学金を受給しているため、大学からの経済的なサポートはかなり大きいです。家計に負担をかけたくないという思いがあったので、学費の負担を軽減してもらっているのは、やはり心理的な安定性も高まり、とても

培ったそのような能力は、例えばプレゼンテーションの場や企画書の作成時など、社会人になっても必ず役に立つので、そういう能力を社会で生かしていくことができればと思います。

大学院の沿革

1952年	法学研究科、商学研究科、政治経済学研究科、文学研究科、工学研究科の5研究科開設
1959年	経営学研究科、農学研究科の2研究科が増設
1993年	工学研究科が理工学研究科に改組
2003年	農学研究科生命科学専攻増設
2004年	法科大学院、ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科開設
2005年	文学研究科臨床人間学専攻増設、会計専門職研究科開設
2008年	理工学研究科新領域創造専攻増設、情報コミュニケーション研究科、教養デザイン研究科開設
2011年	文学研究科文芸メディア専攻増設、先端数理科学研究科開設
2012年	国際日本学研究科開設
2014年	グローバル・ガバナンス研究科開設
2017年	先端数理科学研究科先端メディアサイエンス専攻・ネットワークデザイン専攻増設、理工学研究科専攻再編
2018年	法科大学院を専門職大学院法務研究科に再編

MEIJI NOW メイジノウ この座談会の全文は **MEIJI NOW** でご覧いただけます

